

平成28年度 第二回我孫子市放課後対策事業運営委員会

●日 時 平成28年10月7日（金） 午前9時30分から午前11時30分

●場 所 我孫子市役所 議会棟 会議室A・B

●出席者

委員 長谷川敬一（委員長）、吉川廣一（副委員長）、北原靖子、佐藤哲康、菌部文、海老原広哲、前田由美、坂手千代子、浦島誠、小林まり子、鈴木幸子、小林加代、

事務局 コーディネーター：大塚美香子、野原明美、佐藤里美、池上真千子、河村千春、清水かほる、大野敦子、飯塚章江

子ども支援課：山澤賢司、鈴木正久、小野佳子、藤田航介

* 議事録作成のための録音許可について

* 資料確認

●会議概要（要約）

開会

- ・議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・本日は、傍聴人の届け出はありませんでした。

【委員長】

それでは、これから第2回放課後対策事業運営委員会を始めたいと思います。次第に沿って進めていきたいと思います。まず、第1点目、平成27年度における実績報告について、(1)の「平成27年度 あびっ子クラブにおける利用児童数」について、事務局、お願いしたいと思います。

1. 平成27年度における実績報告について

(1) 「平成27年度 あびっ子クラブにおける利用児童数」

【事務局】

資料1は平成27年度のあびっ子クラブにおける利用児童数の表となります。学校別に平成27年5月1日から平成28年4月30日までの登録児童数と利用児童数となります。

各あびっ子クラブとも1年生から3年生までの低学年の登録率・利用率は80%以上と高い数値になっております。4年生以上になりますと、部活動や習い事が多くなることや地域性によりますが、登録率が40から70%前後、利用率も40から90%とばらつきが見られます。

登録率では、一小、並木小、高野山小が60から70%と高く、利用率では湖北台西小、並木小、二小、高野山小が80から90%となっております。

表の下段、布佐小児童の表につきましては、長期休業中における布佐南小での利用状況となっております。

報告は以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

今、平成27年度のあびっ子クラブにおける利用児童数の報告をいただきました。

あびっ子クラブについては、今年度、湖北小学校でも6月からオープンし、来年3月オープンに向けて今、新木小学校で整備を進めているところです。これで、全13小学校中12校に設置が完了します。最後、布佐小学校が残っていますが、布佐小についても平成30年度までにはオープンし、全13小学校全部にあびっ子クラブを設置するという計画を進めているところです。

このことについて何かご質問等ございますか。よろしいですか。

あびっ子クラブについては多くのお子さんが登録されて、今、説明がありましたように、特に低学年のお子さんについては非常に登録率が高いという形になっていると思います。

湖北台東小のPTAさん、いかがですか。

【委員】 身近な保護者の方、お母さん方何人かに話を聞いたりしたのですが、やはり1・2年生のうちはかなり利用するけれど、学年が上がるにつれ、4年生以降になり部活も始まると、あびっ子クラブに行く時間もなくなります。また、やはり部活があるので、高学年の利用者が少ないと、そこにたまに高学年の子が行っても低学年の子しか参加者がいなくて、どうしていいか分からないという状況にあるようです。

【委員長】 一緒に遊ばないということでしょうか。

【委員】 そうですね。一緒に遊ぶ友だちが、小さい子のお世話をしたり、遊んだりすることも大事ですが、だんだん高学年になると、利用が少なくなってくるのは自然な流れかなと思います。やはり1・2年生の子のためというか、低学年のうち、ひとりで留守番するのは心配とか、そういった時期にこそ必要というか、そこが大事だと感じています。

【委員長】 ありがとうございます。

布佐小PTAさん、いかがですか。

【委員】 はい。私のほうではちょっとリサーチしてきていないので、よく分からないのですが。

【委員長】 そうですね、まだ布佐小はできていないですね。

【委員】 はい。ちょっと分かりかねるところがあります。

【委員長】 すみません。ありがとうございます。

サポーターとして、実際に携わって何かございますか。

【委員】 湖北小のあびっ子クラブにサポーターとして参加しています。やはり低学年がほとんどで、高学年の子は部活があるので、部活が終わってからではもう無理な時間帯になってしまいます。低学年の子は、グラウンドでも遊べるし、中でも遊べる。湖北小あびっ子クラブはオープンから3カ月がたち、人数的にもそろそろ落ちつき、すごく楽しんでいるなどというのはよく分かります。

【委員長】 ありがとうございます。

東小のサポーターさん、いかがですか。

【委員】 やはりこの学校も同じように低学年の方が多いと思います。お子さんたちは普段、おうちでひとりではできない、いろいろな工作や遊びが、あびっ子クラブでできるということで楽しみにしています。やはり高学年になると部活で脱退の子が多いかなと思います。ただ、長期の休みや、部活のないときにふらっと来ることができるということは、高学年になったときにいいかなと思っています。

【委員長】 ありがとうございます。

やはり低学年の子の活動、参加が多いということだと思います。

それでは、次に移りたいと思います。続きまして、(2)の長期休み中のあびっ子クラブ9時開室における利用数についてということで、事務局からお願いしたいと思います。

(2) あびっ子クラブ9時開室の利用状況

【事務局】 平成27年度より夏休みなどの長期休みの間はあびっ子クラブの開室時間を午前10時から午前9時に1時間、繰り上げしています。資料2の表は年度別・学校別の9時から10時までの利用者数となっております。

あびっ子クラブ全体の利用者数では、平成27年度は約45%の児童が9時から10時までに入室しています。平成28年度におきましても、平成27年度と同様に利用人数の約44%の児童が朝から参加をしています。

あびっ子クラブは本来、放課後の子どもの居場所という位置づけですが、就労支援である学童保育の待機児童緩和の意味も含めまして9時開室としたところですが、利用者の約半数がその時間帯に参加していることから、利用ニーズに対応できたものと考えております。

ただ、学童保育室でも長期休み期間は普段あびっ子クラブのみを利用している児童でも短期による学童保育室を利用する方が非常に多く、定員を超えて受け入れざるを得ない状況になっていることや、長期休みの期間でさえ人員確保が困難である中、時間の延長に伴う人員確保はさらに厳しい状況になっていることには変わりはありません。

報告は以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

昨年度からあびっ子クラブの長期休業期間中の開始時間を1時間早めて9時からということにしたので

すが、その辺の報告がまだされていなかったもので、今回こういった形でまとめさせていただきました。かなりの数の子どもたちがやはり9時から利用しているという結果になっているかと思います。

このことに関して何かございますか。

【委員】 1時間前倒しをして長期休業中に開設しているということについては大変ありがたいことだと思いますし、成果が上がっているということで、とてもいいことだと思います。人員確保という2つ目のお話がありましたが、その辺の具体的な内容、あるいは対応、こういうことをしてきたという何か具体的なお話があれば、お伺いします。

【事務局】 はい。あびっ子クラブに特化した話だけではありませんが、学童保育室でも、今、夏休みなどでも臨時職員の募集をかけても、なかなか応募がなく、それに加えて今、湖北小や新木小など、新しくあびっ子クラブがオープンするところで働いてもらうスタッフ（嘱託職員）の募集をかけている中でもなかなか応募者がいない状況です。シフトで勤務していますので、開始時間を1時間早めた条件も含めて働いてもらうとなると、人員の配置は難しいというところです。

【委員】 難しい中でもご苦労なさって何とかやりくりしてきたということなのか、あるいは、ある程度は目をつむりながらでも対応、100%はできなかったけれど、最低のところまで頑張ったというイメージでしょうか。

【事務局】 9時開室となったことで、各あびっ子クラブのコーディネーターが、決められた時間の中で人員を調整し、勤務体制を整えているのが現状です。希望人数に見合う応募者があれば、もう少し余裕を持った人員の配置ができるという状況です。

【委員】 それとやはり、事務局もそうでしょうか、コーディネーターさんが一番ご苦労なさっているという実情があるということですね。

【事務局】 そうですね、サポーターの調整や学校の調整も含めて、いろいろな人と一番関わるのがコーディネーターなので、一番苦労はあっていると感じています。

【委員】 ありがとうございます。

【委員長】 今の件につきましては、子ども子育て支援法が施行されてから、それぞれの市町村でも学童保育の設置を進めたり、あるいは、放課後子供教室の設置を進めたりということが始まっていますので、各市町村も、人員確保については大きな課題としてあるということは聞いています。その中でコーディネーターを中心にいろいろやりとりしていただいて運営していこうと考えております。

【委員】 人が集まらないのか、やろうと思っても条件が悪いからできないのか、いろいろその人の予定があると思いますが、感覚的で結構ですから、応募なさる方が少ないのか、やろうと思っても、「賃金も含めて条件が合わない」と思っている方が多いのか、その辺はいかがですか。

【事務局】 その辺は一概にこうだという答えはないと思いますが、やはり年齢層によって、例えば、若い世代、20代、30代の方というのは、今の雇用体系ですと、ひとり立ちといったら語弊があるかも

しませんが、かなり厳しいような状況というのは確かにあります。

例えば、子育てを終えた世代の40代、50代の資格を持った方から応募があるかということ、今の状況だと広報やホームページで周知をしても、なかなか応募がないというのが現状です。年代によって応募しない理由というのは異なってくると感じています。

【委員】 応募はあるけれど、採用できないという方も実際にいらっしゃるということですか。

【事務局】 中にはいます、はい。

【委員】 申し込みをなさる方の絶対数が少ないということは、それが前提でと。

【事務局】 そうですね、はい。

【委員長】 よろしいでしょうか。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

それでは、(3)番、4月1日から入学式前日までの朝の延長保育の利用状況についてご説明をお願いします。

(3) 4月1日から入学式前日までの朝の延長保育利用状況

【事務局】 平成27年度から4月1日から入学式前日までの間、通常7時45分開室を7時30分に繰り上げて実施をしています。資料3は平成27年度と平成28年度の実績となります。

平成27年度の合計では、登録者864人のうち97人の申請がありまして、申請率は11.3%となっております。28年度では同様に登録者794人のうち申請者67人、申請率は8.4%となりました。

合計欄の最大利用日数だけの人数を見ると、平成27年度は62名、平成28年度は46名と若干減っております。

こちらの表にはありませんが、延べ利用者数についても、平成27年度は188名、28年度は151名となっております。

以上です。

【委員長】 はい、ありがとうございました。

開室時間を少し早めたというところですが、これは特に新1年生ですが、保育園に通っていたお子さんがこの学童、4月1日から学童に入るという形になったときに、今まで保育園は7時から預けられたということです。それが学童に入ったところで7時45分という形になってくると、ちょっと保護者の方もその辺の時間の差で困ってしまうというところがあって、15分ではありますが、早めたというところがあります。

その利用については、1日当たり100円の料金をとって延長を行ったという形になっています。

利用状況としてはもう少し多いかとは思っていましたが、それほどでもなかったかなという感じはしております。

このことについては何かご質問等ございますか。よろしいですか。

【委員】 すみません、もし、こういうふうにご利用が少ないときはどれぐらいをめどに試してみた後、その後話し合っつてやめるとか、あるいは、これだとコストパフォーマンスが悪いからもっと繰り下げる、7時開室にしたらいいかもしいかなと、そういう方針、見通しの話もちよつとあわせて伺わせてください。

【事務局】 このことはまだ市の方針を協議しておりませんが、あまりにも少なければ、朝の開室時間の繰上げはやめるといふのも選択肢の1つになっているのかなというふうには思います。現時点ではもうしばらく継続していきます。

【委員】 それは学童の連絡協議会ではお話しは出るのですか。

【委員】 これは4月の入学式前までの利用のみの話ですが、やはり市連協としては通年にしてほしいと、子ども支援課さんと毎年要望として出ている話だと思います。ただ、やはり人員の確保が難しいとか、そういった回答で毎年同じ感じになってしまっていますが、学童保育に入っている人たちは、お金を出してもいいから、7時から開室してほしいなど、そういった意見が出ています。今度懇談会があるので、ここでまた話し合いがあると思います。

【委員長】 通年といつても、長期休業期間中とか、学校が休みのときという意味でしょうか。

【委員】 できれば、通年で。

【委員長】 このことについて何かありますか。

【委員】 保育園では7時から預かっていたのが、30分間差がありますよね。その辺のところは、今までの3月31日までと、その続きを実際はどのようにしているか、ご存知ですか。

【委員】 ご近所さんに預けたり、親戚の方に頼むなどしているが、かなり厳しいという声が出ています。

あとは、ちよつと良くないのですが、その辺の公園とかで遊ばせておいて、時間になったら行きなさいと言っている方もいらつしゃるといふことも聞いています。

【委員長】 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは、次に移ります。議題2番目、あびつ子クラブ及び学童保育室の運営についてといふことで、(1)の湖北小学校の運営についてお願いしたいと思ひます。

2. あびつ子クラブ及び学童保育室の運営について

(1) 湖北小学校の運営について

【委員】 おはようございます。湖北小あびつ子クラブです。オープンから現在までの様子をお話したいと思ひます。

登録人数は、6月1日のオープンのとき242名でした。現在10月1日は271名の児童が登録して

いる状況です。

あびっ子クラブがオープンするまで多分、あびっ子クラブがどんなところか分からない方も多かったと思いますが、実際にオープンしてみると、あびっ子クラブの様子を見に来たり、友達からの口コミなどで特に高学年、5・6年生のお子さんの登録がとても増えたように感じています。

オープンの日の6月1日は水曜日でしたが、1年生から3年生までは5時間授業ということで、その後4年生から6年生が6時間授業、終わった後に皆さんが来てくれて、6月1日の日は92名の子どもたちが遊びに来てくれました。湖北小あびっ子クラブは、普通の教室1部屋がメインルームということでしたので、やはり92名のお子さんが来ると、本当にもうすし詰め状態で、私たちも移動することができないぐらいびっちらと子どもたちが集まってきてくれました。その中で、塗り絵や、トランプ、ウノなどでお友達同士、上手に遊んでいました。

それと、高学年の子どもたちからは宿題がしたいという要望がありましたが、部屋の中ではできる状況ではなかったため、廊下にテーブルを2台出して、そこを急遽勉強スペースを設けたりもしました。

心配していた天気も曇りでしたので、校庭で遊ぶこともでき、大きなけがなく初日を無事に終えることができました。

オープンから一番利用人数の多かった日が6月3日の金曜日です。この日113名の子どもたちが遊びに来てくれました。

オープンから水、木、金と3日間、1年生の担任の先生方が子どもたちを引率し、あびっ子クラブのメインルームのお部屋の近くまで出てきてくださって、参加カードの確認も学校の先生が協力してくれました。

それは多分5月の終わりぐらいに学校に練習に行って、先生方、子どもたちの様子を見て、多分大変だろうかと心配をしてくださってのことだと思いますが、保護者の印鑑がない子どもには「今日は印鑑がないから、お家に帰りますよ」という声かけをしてくださいました。ですから、子どもたちもとても素直に、やはり担任の先生から言われると納得をして帰っていく姿が見受けられました。

先ほど言ったように、1年生から3年生までが一斉に帰ってくる時間帯でしたので、私たちもいろいろと考えながら、スムーズに受け入れができるように考えておりましたが、本当に1年生の担任の先生方のおかげでさらにスムーズに受け入れをすることができました。先生方には本当に協力に感謝しております。

6月の2週目に入りまして徐々に70名から80名、3週目に入りますと70名から60名と少しずつ人数が減ってきて落ちついてきました。

ただ、やはりいろいろなおもちゃで遊ぶということはなかなかできず、梅雨の時期でしたが、雨が降ることが少なく校庭で遊ぶことができたということが非常にありがたかったです。

7月に入り、すぐ4、5、6と短縮日課の早帰りの日がありました。この日は1時半ごろの下校ということでしたので、80名弱ぐらいの子どもたちが毎日来て参加してくれました。

1学期の終業式ぐらいいまでは、月曜日は一斉帰りということで、1年生から6年生まで5時間で帰りの日だったので、30名から40名と少なくなりましたが、ほかの曜日の日は60名前後の、そして、6時間目が終わってからの4年生以上の高学年の利用率も非常に多く来てくれました。

あとは、土曜日ですが、平均15名から20名ぐらいの利用があり、そのうちお弁当持ちの子も10名から15名ほどいました。

だんだんと遊ぶものも飽きてきている時期でしたので、子どもの利用の人数を見ながら、スズランテープでの三つ編みやポンポン作り、折り紙で作るこま、カレンダー作りなどのチャレンジタイムというのでも7月から少しずつ取り入れてきました。

湖北小の校庭はとても子どもたちに魅力的なターザンロープや、象さん滑り台と子どもたちが呼んでいるのですが、アスレチックのような固定遊具もたくさんあり、非常にとても人気の固定遊具があります。また、サッカーや、バドミントンを楽しむ姿も見られました。

夏休みに入り、7月は50名前後の利用人数に落ちついてきました。やはりお弁当持参の子どもが多く、テーブルが足りなくなることもありました。大体30名前後の子どもたちが、お弁当を持ってきていたので、テーブルが足りなくなることもあり、慌ててビニールシートなどで対応しました。

8月に入り、前半では20名から30名ぐらいに落ちついてきました。子どもたちが大体毎日同じような顔ぶれになってきて、私たちもやっと子どもたちの顔と名前が一致するようになってきました。9時からということで長い時間を過ごすので、人生ゲームや、サッカーゲーム、野球ゲーム、また、300ピースのジグソーパズルなどを新たに出して、子どもたちがゆったりと遊べるスペースを設けることができました。ただ、今年も猛暑で暑かったため、校庭に魅力的な遊具はあるのですが、校庭で遊びたいという子どもはいなくて、9時から5時まで室内で過ごすという日が多くありました。

8月の後半ですが、台風の影響で天候の悪い日が続き、台風の日などは1、2名の参加、利用ということも何日かありました。

ただ、初めての夏休み、大きな事故やけがもなく、無事に夏休みを終えることができほっとしております。

あとは、夏休み中のチャレンジタイムですが、お話の会（麦の会）やボランティアの方による工作、リボンで作るリース作りや、ミサンガ、カレンダー作りなどをして、これを目当てに来てくれる子どもたちもいました。

9月、2学期が始まり、利用人数は大体40名前後に落ちついてきました。今日行われていると思いますが、陸上競技大会があるため高学年の利用がなくなり、1・2年生の低学年の利用が中心となりました。

夏休み中には、スタッフが段ボールで作った電子レンジや冷蔵庫に、もともと買ってあったアイスクリームやドーナツなどのおもちゃを一緒に使ってお店屋さんごっこなどは、やはり低学年が多いので、そういった遊びが今はとても人気があります。これからはまた段ボールでキッチンセットを作り、おままごと

などもできるように、現在、制作準備中です。

9月からは、あびっ子の碁という外部のサポーターの方による囲碁の教室が始まりました。月2回火曜日に来ていただき、囲碁も非常に人気が高く、毎回子どもたちが20名前後参加しています。

今月10月に入り、サポーターさんが手芸のチャレンジタイムを新たに設け、工作なども始めようと考えています。

本日、カプラという木、薄い板のような積み木ですが、そのカプラというおもちゃが新たに入ります。今日はインストラクターが実演し、いろいろな遊び方を教えてくださる予定になっています。

子どもたちは本当にすごく意欲的で、チャレンジタイムをすごく楽しみにして来てくれています。

最後になりますが、オープンから暑い日も台風の日も一日も休まずに来てくださるサポーターさんが1名います。高齢の男性の方ですが、非常に意欲的で元気な方です。子どもたちにオセロや将棋を教えられたり、また、反対にウノや人生ゲームを子どもたちに教えてもらったりしています。本当に子どもと過ごすことが毎日楽しく充実していますというふうにおっしゃって、子どもたちをととても温かく見守っていただけます。このサポーターさんと遊びたくて土曜日、わざわざ遊びに来てくれる1年生もいます。今はそういったような状況で過ごしています。

以上になります。

【委員長】 ありがとうございます。

湖北小は、今説明があったように、今年の6月1日からオープンしたということで、オープン時から、土曜日、2学期までの様子を伝えていただきましたが、このことについて何かご質問等ございますか。

話を聞いていると、やはり結構地域のサポーターさんが入ってくださって、一生懸命運営に携わってくださっているというのが伝わってくるかなという感じもしました。また、学校もそれなりに協力して下さっているということで、できれば今日は湖北小の校長にお話を聞ければよかったのですが、残念ながら欠席ということです。いかがですか、何かご質問、ご意見はございますか。

私から1つ質問させていただいていいですか。今サポーター登録はどれぐらいですか。

【委員】 今は2名です。

見守のサポーターの方が本当にオープン前から多分ほかのあびっ子クラブさへ「どんな感じで運営しているのか」と聞きに行ったりして下さったようで、オープン前から私のところにも来てくれて、すごく興味関心のある方で、私たちより多い日数を毎日来てくださって、子どもたちを上手に見守りしてくださっています。

あと、囲碁で1名サポーター登録をしてくださっている方がいます。

【委員長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、次に移りたいと思います。次の(2)の第四小学校の運営についてということですが、今日

は発表していただく方が体調不良ということで残念ながら欠席ということです。ですから、大変恐縮ですが、割愛いたします。それでは、(3)の夏休みのイベントについて、布佐南小あびっ子クラブコーディネーターから報告をお願いします。

(2) 第四小学校の運営について (欠席のため、割愛)

(3) 夏休みのイベントについて (布佐南小)

【事務局】 布佐南小です。よろしくをお願いします。

長期休業中のイベントとしては、ボランティアによる麦の会のお話会やマジックショー、工作教室などが行われました。今日お話しさせていただくのは、その中で演劇体験をやりましたので、それをご報告させていただきます。

学校支援コーディネーターよりNPO法人のパコモと子どもたちが一緒に朗読劇ができないかと相談がありました。そして、パコモが学校と劇団文学座の協力を得てチャレンジタイムで行うことになりました。文学座の演出部の方が指導してくださいます。

夏休みに一度、演劇体験ということで実施しました。参加者を募集したのですが、なかなか多くは集まらなくて、南小は学童と一緒に行動することが多いので、学童保育室の子どもたちにも全員、とにかく一緒にやりましょうということで、学童の子たちを全員参加させてあびっ子クラブの子どもたちと一緒にやりました。夏休みの体験では、ゲームを通して声を出すことに慣れることをしたりしました。

それから、毎月1回行われまして、2月の最後に、学校の協力を得て学校で発表会をすることにもなっています。

9月、10月と、もう既に2回やってきたのですが、「モモ」という台本を手にも本格的な練習が始まりました。子どもたちは本当にやりたいという子ばかりではないのですが、1時間から1時間半頑張って本読みをしています。1回目よりも2回目は、大分上手になってきて、子どもたちはどうも学校の中では「いつ演劇だっけ？」という話も出てくるようになってきているということです。

これを提案した学校支援コーディネーターは、ゆくゆくはあびっ子クラブだけではなくて、地域の朗読をやっている方々と一緒にみんなでそういうものができたらいいなという夢を描いているそうです。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

今、布佐南小の夏休みの取り組みについてお話ししていただきました。

このことについて何かご質問・ご意見等ございますか。いかがですか。

これは演劇の発表日程は決まったのですか。

【事務局】 2月の中旬に発表予定です。参加しているのが1・2年生ばかりなので、全校の前でやるか、もしかしたら低学年を対象に行うかということはまだ決まっておりませんが、2月の中旬には発表す

るそうです。このことは、学校の先生も協力的で承諾しているようです。

【委員長】 ありがとうございます。

学校の協力もあるようですが、いかがでしょう。

【委員】 これは「モモ」の朗読劇ですね。

【事務局】 そうです。最初、私も演劇体験ということで、台本をちゃんと暗記して、いろんな身振り、手振り、本当の演劇かなと思ってちょっとどきとしたのですが、1回目台本をもらったときに読んでいくととても長いんですね。子どもたちも初めてだったので、もう本当に教科書を読むときのように1字1字、まとめて「私は」というわけにいかず、「わ、た、し」という状況だったので、すごく長いもので、どきどきしていました。なかなか私たちもどういうものをしたのかというのが最初は把握できないまま、私たちあびっ子クラブとしては場所をお貸しすればいいというぐらいに考えていたので、この10月に再度確認しましたら、暗記するのではなく、本を持って朗読の劇ということでした。完全には覚えなくても暗記できるぐらいになるのが一番いいのですが、本は持っていていいよということで朗読劇ということになっています。

【委員】 月1回来てくれて、全体練習をするのですか。

【事務局】 そうです。

【委員】 その間はもう個人練習ですか。

【事務局】 その間は、あびっ子クラブの子が5人で、そのほかの十何人は学童保育室の子が占めているので、学童保育室に台本を置いておいて、10月はなるべくその台本に触るといふか、毎日読めたらいいなということで声かけをしています。それが現状です。

【委員】 個人練習の声かけは、どなたからですか。

【事務局】 大人からです。

【委員】 子ども達ではなく、大人からということですね。

【事務局】 最初、夕方子どもたちが少なくなった段階でもう遊ぶ相手がいなくなったりして、何をしようかなといつて、「あつ、本を読もう」みたいな形になったんですね。自分たちで台本を出してきた子どもが2人ほどいたので、次の日からは、「1回、読もうか」と声をかけたしたところ、声かけに応じてくれる子が多くなっているという段階です。無理やりさせてもしようがないのですが、自分が読んで、読めるようになると楽しいという感じなので、このまま続いて最後まで持っていければいいなと思っています。

【委員】 ありがとうございます。

【事務局】 せっかく子どもゆめ基金の助成を受けているということなので、将来振り返ったときにこんなこともあってよかったなと思ってもらえるのではないかとということでスタッフは進めております。

【委員】 わかりました。

【委員長】 ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして、(4)の夏休み学童保育について、根戸小学校あびっ子クラブコーディネーターから報告をお願いしたいと思います。

(4) 夏休みの学童保育室について(根戸小・湖北台東小・湖北台西小)

【事務局】 根戸小学校あびっ子クラブです。よろしく申し上げます。

根戸小学童保育室の夏休みにつきましては、今年度根戸小の受変電設備の更新工事がありまして、それに伴って8月10日から16日の1週間、あびっ子クラブを閉室し、第一学童保育室を第二学童保育室、第三学童保育室へ異動させました。(根戸小学童保育室は第二、第三の学童保育室は、敷地内の隣接するプレハブの1階、2階にあります。)

運営委員会にはよくあびっ子クラブでの展示物を持ってきているのですが、今回は、第一学童、第二学童、第三学童の夏休みの様子もこちらに持ってまいりましたので、お帰りの際には様子も見ていただければと思います。

受変電設備の更新工事に伴う対応につきましては、あびっ子クラブと第一学童が停電するというので、保護者への周知として、あびっ子クラブの7月のお便りで予告し、8月のお便りと活動プログラムでお知らせをいたしましたところ長期間の休みに関することについて数件の問い合わせがありました。また、間違っあびっ子クラブに来てしまったということが二、三件はありました。根戸小の児童が1,146名、そして、登録児童が今現在753名の登録があるにしては混乱もなく工事が進められたかと思えます。

学童保育室においても、第一、第二、第三、3つの学童の保護者の方へ周知をするためにお便りと、それから、子ども支援課や学童保育室独自で持っている父母会メールに加えて、保育室で掲示をするというお知らせ方法で周知をいたしましたので、大きな混乱はありませんでした。

次に、第一学童の夏休み短期生も合わせて53名の子どもたちを移動させなければいけないのですが、第2と第3学童に分けます。第二学童が42名、第三学童が44名の139名の学童の在室となっていましたので、いずれにしても定員40名のところに53名の子どもたちが行くことになり、それは満杯状態が予想されましたが、10日から16の間はお盆の前後ということもあり、例年利用する人数が少なくなりますので、そういうことも見越して、一応10日から16の間の利用人数を把握するため、まずは保護者に予定表の提出をお願いしました。予約人数を把握し、第一学童の子どもたち、どのように分けるということを各保育室のリーダーが話し合いした結果、学年ごとに分けることになりました。

1年・4年のグループと、2年・3年のグループ、いろいろ子どもたちの特質もありますので、2・3年生の多感な子どもたちと一緒にしてもいいのかなど、1年生・4年生、1年生の子どもを2階に急に移動させてもいいのかなど様々な状況検討した結果、1階の第二学童に1年生と4年生、第三学童に2年生と3年生ということで振り分けることとしました。

それでも予約をとった時点で、3つの学童合わせて10日が77名、12日が53名、13日の土曜日は4名、15日のお盆は41名、16日が58名という予定でしたが、実際には当室した人数はそれよりも随分減ることになりました。

次に、スタッフの配置です。根戸小あびっ子クラブ、3つの学童合わせて嘱託が11名、アシスタントを含め総勢31名になるのですが、それは一日保育の中の確保した人数です。

その1週間の間は嘱託を中心にアシスタントを含めて3人体制を組むように、3つの学童からスタッフが分かれるように午前と午後、早番と遅番で、シフトを組むような形を各リーダーが毎日検討して組み、子どもたちが安全に安心して保育できるように対応いたしました。配置については、当日のキャンセル等もあり、予約人数が大幅に減ったため、逆をお願いをしたアシスタントさんにお帰りいただくということも出ましたが、けがなく過ごすことができました。

次に、学童にはおやつがあります。電気が使えませんが、第一学童のおやつ分は、第二学童と第三学童の冷蔵庫をお借りするしかありませんでした。そして、1週間分を移動しなければいけないので、前もって各保育室の冷蔵庫、冷凍庫が満杯にならないように少し乾きものを増やし、アイス等もかさばるようなアイスは控え目にして、アイスチューペット等を提供する、電子レンジ使用のものは控え目にするという工夫をいろいろと学童のスタッフで対応しました。

おやつも各学童それぞれで注文いたします。保育室ごとにメニューが違います。第二学童、第三学童に第一学童の子どもたちが混ざっておやつをいただくのですが、「あっちのおやつがいい」、「このアイスがいい」といろいろな声はあったようですが、隣を見ながら、談笑しながら、うらやましがめることはあったようですが、トラブルもなく楽しく過ごせました。

逆に、第二学童、第三学童では「こういうのを食べているのか」、「次は自分の学童保育室でも、先生、注文して」などという声が聞かれて、スタッフも今後のメニュー作りの参考になったということも聞かれます。

停電については、実は昨年も学校で平日に故障があり、3時、5時ぐらいから急に停電ということが2回ほど社会福祉センターでありました。急遽、第一学童の子どもたちを第二学童、第三学童、夕方5時ぐらいから大移動させるという経験していましたので、今回の移動は、子どもたちも普段と違った生活で少し不自由はありましたが、楽しみながら過ごせたかなと思います。

保護者にも周知はしていたのですが、メールやお手紙を見逃したということもあり、間違っって第一学童に迎えにいらっしゃる保護者が何人か見られましたが、大きな混乱もなく、トラブルなく過ごせました。普段自分たちの保育室以外の子どもたちがどっと来るわけですから、スタッフにとってもやはりすごく保育については気を使ったと思います。

ただ、根戸小学校では常に第一、第二、第三学童、また、あびっ子クラブも含めまして平日から交友時間を設けていることや校庭でも各学童保育室からスタッフが1名、2名が常に出て連携をして全児童を保

育しておりますので、大きなトラブルもなく、けがもなく過ごせた部分は学童のスタッフ一同、終わったときにはほっと胸をなでおろしたと思います。

根戸小は3つの学童がありますので、常に合同ミーティングと言いまして、あびっ子クラブも含めて月1回11名のスタッフが集まって保育のすり合わせや、室内のルール、校庭のルール、危険な箇所がないか、子どもたちの様子も共有しようということで、常に情報の共有をし合っております。夏休みは、プールを保育の中に取り入れ、3つの学童保育室139名在室の中で、根戸小のプールを利用するのですが、そういったところでもやはりお互いに情報を共有し、スタッフの配置を3つの学童で話し合いを重ねに重ね、安全に子どもたちを水に親しませ、遊ばせるということで、根戸小学童スタッフは頑張っております。

ちなみに向こうにも掲示しておりますが、3つの学童のプールの様子や夏休みの工作の取り組みにつきましても、3つの学童での話し合いをし、年によっては3つの学童それぞれオリジナリティーの作品を工作として取り入れることもあります。3つ、統一のものを作って、工作として取り入れるということもあります。それぞれのスタッフがいろいろなアイデアを出し合い、そして、あびっ子クラブも含めて情報共有しながら根戸小の子どもたちを預かり、保育をしているという状況です。

以上です。ちょっと長くなりましたが、根戸小あびっ子クラブと学童保育についてご説明いたしました。

【委員長】 ありがとうございます。

ここは3つの小学校から夏休みの取り組みについてご説明いただきますので、全ての小学校からご説明いただいた後に質疑応答を受けたいと思います。

続きまして、湖北台東小学校からご報告をお願いしたいと思います。

【事務局】 湖北台東小学校あびっ子クラブです。よろしくお願いします。

湖北台東小学校と湖北台西小学校もやはり夏休みに停電ということで、学童保育室の閉室期間を1週間ずらして相互に移動することになりました。

以前3月にも停電し、湖北台東小学童保育室は湖北台西小で一日保育をする移動経験いたしました。そのときには、停電の予定が1時からということでしたので、あびっ子クラブはお昼で閉室いたしました。

夏休みの停電の移動は、根戸小の同じ敷地の移動とは異なり、東は西へ、西は東へとい大きな移動となります。移動先は、東小は西小の地域交流教室へ、西小は東小の地域交流教室へという予定でした。西小の地域交流教室は空調設備が未設置でしたが、夏休み前には空調設備が設置され移動準備が整えられました。

3月のときに西小に移動した経験をもとに子どもたちは、西小の遊具の利用をととても楽しみにしていきましました。1年生は、上の子たちから、大きなテーマパークのような滑り台のことを聞き、それに乗れることをとても楽しみにしていました。

夏の移動保育について、父母会で周知し、完全予約制としました。「今日はやっぱりお休みします」など

という急な連絡による現場の混乱も予想されるため、子どもの送迎は必ず保護者を行うことをお願いするという事で予約を始めました。

固定電話も当然、使えないのですが、携帯電話が各保育室に配置されておりますので、その携帯電話が唯一の連絡先となります。

いろいろ準備を始めて、父母会で話し合ったりする中で、出てきた問題として、西小は、学校に入るまでに全てスクールゾーンなので、スクールゾーンを通らないと西小には入れないという道の事情になっていきます。保護者の朝の送迎用の駐車場として、西小の前にある図書館湖北分館の職員駐車場を開放する対応していただけたことで、駐車場所の混乱や交通違反者も出ることもなく送迎でき、保護者も安心されたのではないかと思います。

期間は8月8日から8月14日、土日も含んでいたのも、実質移動したのは8月8日から8月14日の1週間ということでした。あびっ子クラブの閉室はお盆の閉室の時期と重なり、今年は山の日がありましたので、前倒して11日から19日までを閉室ということにさせていただきました。このため、子どもたちに影響があったのは、8月8、9、10日の月、火、水の3日間でした。この3日間の閉室でもやはりあびっ子クラブの子どもの利用は、朝から何人もお弁当を持ってきているという、どこのあびっ子クラブもそういう状況ですが、準学童として利用される方が多いので、その方たちはこの1週間どうするのかというのがとても気がかりでした。

あびっ子クラブの閉室による影響ということをお話させていただきます。お盆休みと時期が重なっていたということでは1週間で済みました。保護者への周知ということでは、お便りで7月号と8月号の2回周知するとともに、いつも通ってきている子どもたちに再三再四閉室についての話しをしたり、あびっ子クラブの前には閉室期間に関する張り紙を出して対応していきました。その後、困ったというお話はなかったので、何とかやれたのだろうなと思っています。事前におばあちゃんのうちに行くとか、どこかへ旅行の予定入れるということに対応して下さった方が多かったです。あびっ子クラブは、学童とは違って何とかできる家庭が多いのかなという感想は持ちました。

西小と東小と湖北台中と結んで小中一貫ということで、両校の子どもたちは仲よくしようということがあり、5年生は林間学校でも西小と東小が一緒になってお互いを認め合うということがなされております。学童保育室間でも仲よくなる良いチャンスだと思いつつも、お互いに問題を抱えた子どもがいるため、外遊びの時間をずらしてみたり、場所を変えたりということで、「みんなで一緒にドッジボール大会しようね」というスタッフ間での考えはありましたが、お互いにうまくすみ分けすることができたと思います。

保育室が移動するということになりますと、その準備が大変でした。ほとんど子ども支援課の方に運んでいただいたのですが、地域交流教室に用意されているのは、椅子とテーブルなので、子どもたちが一日いるためには、椅子とテーブルというよりは床にやはり座ってというほうが作業、子どもたちがいろいろなもの作ったりするのもしやすいということもあり、床に敷くものから、座りテーブルから全て運んでい

ただきました。

ただ、冷蔵庫の移動は難しいということと言われていたので、対応について協議していたところ、保護者の方から「大きなクーラーを持っているので、それを運んできてもいい」という申し出もあったのですが、結果、スタッフが持ち運びできる冷凍・冷蔵併用の機器を持っていることがわかり、機器を利用する事で冷たいお茶を飲むことができました。

ただ、アイスクリームまでは手が回らないということなので、スタッフが毎日買い出しをして、おやつ時間にアイスをお届け、おやつ時間とぴったり合っていれば、そのまま提供できましたが、合わなくてもアイスの時間としてあげたりしていました。子どもたちも移動することで、いろいろ負担は気持ちの中ではあるだろうから、せめて好きなアイスは出してあげたいという気持ちがあって、スタッフは努力いたしました。

保育室までの送迎は、保護者には大きな負担があったのではないかと思います。時間ぎりぎりにお迎えに来る保護者の方は、慣れない場所だったりするので、遅れた方はいませんでした。気持ちの負担というのは結構あったのではないかと思います。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

続きまして、湖北台西小から報告をお願いします。

【事務局】 湖北台西小あびっ子クラブです。

もう今前2つの方が話してくれたこととほとんど同じで話すことがないので、学童の夏休みの様子を話したいと思います。

西小の夏休みは、通年生が45名、短期生が11名、合計56名の子供たちが毎日学童にやってきました。

夏休み中の一日の流れとして、9時から1時間程度の学習時間を設けています。30分は学習しようということを決めていますが、なかなか30分間も静かにしているということではできませんが、定期的に毎日9時から学習時間を設けております。

そして、その後は自由時間となり、お昼までは室内や校庭、それと、あびっ子クラブも自由に行き来しています。そして、3時のおやつ後は外の様子を見ながら、また外遊びをするなど、スタッフが、子どもたちが退屈しないよういろいろと趣向を織り交ぜながら夏休みの計画を立てています。

西小の学童保育室では、今年は和紙の折り染めをして、マイうちわを作ったり、それから、これは定例ですが、子どもたちが大好きなスライムを毎日のように作り、あとは、ビーズや色とりどりの輪ゴムでブレスレットや指輪を作ったり、保育室の前でシャボン玉をやったりと、普段できないようなことをしました。

これらの、マイうちわやスライム作りというのは、お昼の後、日中で一番暑い時間帯になりますので、

おやつの中のその時間、2時間ほどの時間を使ってやりました。その後はセミやトンボなどを採りに校庭に出ていくのですが、西小の学童では網や虫かごを用意して、ちゃんと順番に使うような形でそれを提供しました。

外では、炎天下でサッカーやドッジボールをする、鬼ごっこ、縄跳びなどで毎日汗びっしょりで、一日に何回も着替えをするようなお子さんもいました。ただし、熱中症が一番怖いので、時間を決めて小まめに部屋に入れて、麦茶タイムをとり、そして、また外に出るといふ、そんな感じで夏休みを過ごします。保護者の方には水筒1本持ってきてくださいとお願いしているのですが、とても足りないもので、もう毎日麦茶作りが大変で、前の日の夕方から作って、また朝から作るという感じでした。

あとは、西小は学校のプールが一般開放されるのですが、学童ではプールを利用するお子さんには外出届を出してもらって行ってもらいました。

おやつもいつもよりは冷たいもの、アイス、スイカ、ゼリーなどを中心としたものを提供しました。

それから、8月9日の日にあびっ子クラブと合同の消火訓練を行いました。消防署の方に来ていただいて、実際に消火器を使い、子どもたちも消火作業を体験しました。それは水消火器でしたが、みんな喜んで順番にやりました。その後、消防署の方のご厚意で消防服を着せてもらって、消防自動車に乗せてもらって、みんな得意げに写真を撮って、とても楽しかったと思います。なかなか消防車に乗るといふことはできませんし、消防服を着るといふのは、まさか着せてもらえるとは思わなかったもので、みんな喜んでいました。

それから、夏休みの終わりに体育館をお借りして、お楽しみ会ということで、みんなでドッジボール大会をしました。女の子たちはやはりドッジボールを体育館でやるということとはとても嫌がったのですが、強制的に体育館に全員連れていき、それでやり始めたら、やっぱり楽しかったようで、最後には汗だくで、みんな夢中で喜んでやったので、楽しい一日、思い出になったかなと思います。

あびっ子クラブで遊びたい子は自由にあびっ子クラブにも来ていました。あびっ子クラブでは、工作の「つくってみよう」というチャレンジタイムもあるのですが、そのほかにスタッフでいろいろな工作や、絵合わせカードなど、いろいろなものを考えて提供して、学童の子どもたちも来て、それを作っていましたので、学童だけの生活ではなくあびっ子クラブも利用できたので、よかったかなと思います。

それから、先ほどから皆さんがお話してくださっている8月15日から20日まで停電のために西小が東小の地域交流教室に移動して保育をしました。やはり保護者の方への周知ということで、子ども支援課の方にも父母会に来ていただき、話をしていただき、それと、利用届をきっちり出していただくということでした。

ただ、やはり東小までの送り迎えはとてもできないという方が数人いて、そのときは何とかおじいちゃんやおばあちゃんに預けたり、また、旅行にこの日は当てて行くとか、そんな形で保護者の方には乗り切ってもらいました。

私、以前東小にも勤務していたことがあるのですが、東小の校庭は虫取りの好きな子どもたちには最高のところなのです。セミがものすごい量が出て、西小にもいますが、私は東小の状況を知っているので、西で虫採りという、大して虫がいなくてみんな一生懸命追いかけて、それでも「こんなに取れた」と喜んでいて、東小に行くと、とんでもない量のセミで、子どもたちは本当に喜んで毎日セミ取りをやっていました。

それから、地域交流教室の上が教育研究所のお部屋なのですが、西小の子どもたちは多感な子どもが多いので、少し心配はしていたのです。ですが、教育研究所の先生方にお会いすると、「皆さん元気ですね」とおっしゃってくださいます。でも、東小のスタッフの方にもとてもお世話になり、東小の校庭には西小にはない遊具があり、校庭も広いということで、子どもたちは大変喜んで1週間過ごせました。ありがとうございます。

それから、スタッフの一番の悩みというのは、やはり長い一日ですので、子どもたちが一日学童で過ごすストレスというものがどうしても出てくると思うのです。そうすると、子ども同士、本当にささいなこと、少し手や足が触ったことで大騒ぎになります。西小のスタッフたちも丁寧に子どもたちの話を聞き、その日のうちに問題解決をし、「じゃあ、また明日ね」ということを繰り返すことで、子どもたちも成長すると考えています。

西小の先生方も日ごろから「学童の子どもたちは西小の子どもたちでもあります。ですから、何かあったら話してください」ということから、いろいろと協力していただいています。校庭で子ども同士がもめていたりするときでも、すぐに「どうしたの？」という感じで声をかけていただいて、私たちが注意をしても結構反発してきますが、学校の先生から注意を受けると、緊張して直立不動というような感じで話を聞いていますので、やはり学校の先生はすごいなと私たちは常に思っております。

特に大きなけがや事故もなく過ごせたことに、スタッフは安堵しております。

簡単ですが、以上です。ありがとうございます。

【委員長】 ありがとうございます。

質問を受ける前に、停電の話が出ているのですが、その停電というのはどういう状況だったのかということで、事務局からご説明していただけますか。

【事務局】 今年度より、小学校と中学校にある受変電設備のキュービクルという、外部から学校の電気を受け取っている設備を全て入れかえるという工事が3年計画で実施されています。今年が初年度で、小学校だと、根戸小と湖北台西小と湖北台東小、今、発表あった3校に加えて、布佐小学校でも同じような受変電設備の更新工事がありました。布佐小は、布佐中が隣接していますので、布佐中の多目的ホールをお借りして学童は運営させていただいたという現状になっております。

来年度以降も市内の小中学校3、4校で、計画があるのですが、そこについては、来年度に向けて今、下調査を教育委員会で行っています。その段階で、引っ越しをしなくても学童が運営できるような仮設電源

を設けるといった要望を上げさせていただいて、あまり保護者の方のお迎えや、スタッフに迷惑がかからないような形で来年度以降の更新工事は行っていくように教育委員会には交渉しているところです。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

どうしても工事をやるとなると、学校の運営に影響がないように、子どもがいない夏休みに集中してしまうというのは、これはしょうがないことだと思います。

今、説明があったように、来年度以降、保護者の方に負担がかからないような方法でということですので、ご理解いただければと思います。

今、3つの小学校から夏休みの過ごし方についてご報告がありましたが、そのことについて何かご質問、ご意見等ございましたら、いただきたいと思います。

【委員】 私も湖北台西小にサポーター登録してあるのですが、なかなか伺えなくて申しわけなく思います。この間、行ったときには土曜日でしたので、5年生か6年生の男の子がカプラで遊んでいて、その子は身長が1メートル60になったというのですが、その子の背丈よりちょっと低いぐらいで、私はもう完全に隠れてしまうくらいまで高く積み上げて遊んだりして、結構楽しく遊ばせてもらったので、また時間をつくってみんなに会いに行きたいなと思っています。

【委員長】 ありがとうございます。

ほかには何かありますか。よろしいですか。

それでは、続きまして、5番目、あびっ子クラブにおける緊急時等の連絡方法について、事務局からお願いします。

(5) あびっ子クラブにおける緊急時等の連絡方法について

【事務局】 台風や、天災時の際の緊急時の連絡についてですが、現在学童保育室では保護者に対してメールサービスにて緊急時の連絡がある場合には一斉配信をしているところですが、あびっ子クラブにおきましては緊急時のお知らせをするのが難しい状況で、問い合わせ等に苦慮しております。つきましては、災害時の緊急時の連絡について、学校から保護者へ情報伝達する際に、あびっ子クラブの閉室等に関する情報につきましても盛り込んでいただけないかということのお願いでございます。

学校によっては一部対応していただいているところがあるようですが、全校的に統一した形でできないかということをお願いをしたいと思います。

【委員長】 ありがとうございます。

あびっ子クラブの緊急時の連絡についてということですが、学童保育室については、お子さんを預かる施設ですので、基本的には開室という考えになりますが、あびっ子クラブについては子どもの居場所で、預かる施設ではないというところから、例えば、台風が近づいている際には、午前中で下校、あるいは休

校といった場合に、あびっ子クラブをどうするのかというところで統一的な見解を示して、各学校に情報を流してもらえたらというところです。

先月、学校教育課長のところにお話に行きまして、教育委員会から緊急時の対応内容を各学校に流すときにあびっ子クラブはどうかということも、一緒に流していただくということでお話をさせていただいたというところです。それをすることによって全小学校が統一的な対応がとれるようになるかと思いますので、そういうところで今話を進めている状況です。

このことについて何かご質問等ございますか。

【委員】 本校はどうですか。前向きな対応になりつつあるのでしょうか。ぜひ伺いたいです。

【副委員長】 学校では緊急時に対応できるメール配信ということで整備をしております。

ただ、学校単位、学年単位ということで、全体的な連絡になりますので、あびっ子クラブの登録にかかわらず、全員に、例えば、「今日の学校の登校については保護者の判断で安全を確認して登校させてください」とか、そういう一文プラスあびっ子クラブについて情報提供する場合には「あびっ子クラブはこのような対応になります」といったような一文加えたりするよう、各学校で対応してくださいというのはお願いしてあります。

ですから、我孫子市の場合は、ある程度保護者の方の判断というのをお願いしてあるところで、あとは台風の進路によって直撃、暴風を伴ったの最接近等に伴う対応策を市教委と校長会と相談して、臨時休校にするなどの判断をしますので、それが決まったときに子ども支援課に連絡して、学校はこういうふうにするということで、あびっ子クラブは開室する又は開室しないということにいたしますので、そういう一文をつけ加えて学校から全校、子どもたちへ、家庭へ連絡してくださいと情報を流すというようなことになるかと思えます。

【委員長】 よろしいでしょうか。

【委員】 はい。

【委員長】 ほかに何かご質問等ございますか。

【委員】 このメールサービスのところですが、これは学校とあびっ子クラブが一緒になるような感じでしょうか。例えば、あびっ子クラブのサポーターの方に権限を持ってもらうということではないのでしょうか。

【事務局】 はい。学校長が配信を行いますので、学校の文書にあびっ子クラブの内容を付け加えて配信するということです。

【委員】 あびっ子クラブに登録している保護者だけに出すということではないということですか。

【事務局】 それは逆にできないので、学校ごととなってしまいます。

【委員長】 ほかにございますか。よろしいですか。

では、その次に移りたいと思います。3番目、放課後対策事業の進捗状況についてということで、(1)

一小学童保育室拡張工事の進捗状況について、事務局からご報告をお願いします。

3. 放課後対策事業の進捗状況について

(1) 一小学童保育室拡張工事の進捗状況について

【事務局】 一小学童保育室の拡張工事については、7月の夏休みから始まり、予定していた工事は8月末に完了しました。

主な工事内容としては、拡張した教室が凶工室であったため、別棟の余裕教室に凶工室として使用できるよう、教室を改修する工事と拡張した部屋の照明器具をLED化、扇風機の設置、床をタイルカーペットに改修、手洗い場の設置などを行いました。

9月には父母会で内覧会を行い、保護者からの意見を考慮し、安心安全に使用できるよう、使用方法について検討中でございます。

なお、今現在追加工事で拡張した部屋に収納庫の設置工事を行っている最中です。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

次の新木小についても説明していただいてから質疑を受けたいと思います。2番目の新木小あびっ子クラブ建築工事の進捗状況についてご説明をお願いします。

(2) 新木小あびっ子クラブ建築工事の進捗状況について

【事務局】 新木小のあびっ子クラブの建築工事については、6月8日付で本体及び電気工事の請負契約を締結し、工期が平成28年12月28日の完成予定で進めております。

現在の進捗状況については、9月初旬に基礎工事が終わり、現在建物本体の工事が始まり、屋根工事を行っているところです。

工事完了後は備品の搬入や開室準備を行い、来年平成29年3月のオープンを目指して工事を行っているところです。

以上です。

【委員長】 ありがとうございました。

新木小は、学校の中ではなくて、校庭に学童保育室が建っていますので、その隣にこのあびっ子クラブを作って、渡り廊下で行き来できるようにするという形で今進めています。

今、一小と新木小の進捗状況についてご報告がありましたが、このことについて何かご質問等ございますか。特によろしいですか。

ないようですので、次に移りたいと思います。

一応これで今日の議題は全て終了いたしました。最後に、今、川村学園女子大学さんで、一小のあび

っ子クラブで、いろいろな取り組みをされているということですので、その辺の報告をしていただければと思います。先生よろしくお祈いします。

4. その他

【委員】 これまで川村学園女子大学は、地域の大学として学生さんをあびっ子クラブや学童にボランティアとして参加したり、点検評価のあり方を検討させていただきましたが、今年度ちょっとまた違う調査研究を進めております。

あびっ子クラブと学童の2つがあるというのはこの我孫子市の特徴で、それを一体的に運営しながら、しかし、ちゃんと個性を出しているというのが売りだと思ふのです。例えば、あびっ子クラブというのは実際低学年が多いとか、そうすると、準学童的な扱われ方になっているのも仕方ないというような実態が見えてきたりしますが、でもそれは決して質が低くなったりはしない、例えば、安いからそちらに行ってしまうとか、預けてしまえばいいとなつては困るわけで、やはりあびっ子クラブというところが地域の子育てや、世代間交流の場として個性を持って学童と二本立てでいい形で機能したらいいなと思つています。

そのときにあびっ子クラブの売りといひますか、よい意味の個性は何かと考えますと、チャレンジと見守りの2つのサポーターの役割がすごく大事かなと思つていて、例えば、チャレンジタイム、先ほどの演劇の話など、とてもおもしろい新しい体験がありますよね。これも1つの売りだと思ひます。ただ、そういうときに多少押してみる。子どもはなかなかできないので、押してみてもいいと思ひますが、もっと大事なのは、やはり普段の子どもたちが自主的で、自立的で、自由な、いろいろな活動をするのを見守れる、そういう地域からサポーターが出るということがすごく大事ではないかと思ひます。

というわけで、平成28年度は見守りのサポーターを何かいい形で応援して、結果的にこういう地域の中で世代間の交流というものが広がらないかという研究テーマを出させて採択していただきました。毎年、受かるわけではないので、もうそろそろ最後かもしれないですが、3つほどやっております。サポーターは実際見守りも体験してくださっているサポーターの方々にお声をかけて、6、7名集まっていたいて、ミーティングを定期的に関きながら、1年間、一小を中心に検討を進めております。

1つは、広報や通知です。開いたばかりの湖北小は2名見守りがいるとおっしゃっていましたが、サポーターはなかなか認知されていなかったり、知られていなかったりします。あまり安易に広げてしまつて、何かよく分からない方がいっぱい来てしまつて、コーディネーターさんが困るのもいけないけれど、存在をいい形で分かつてもらつたり、通知する方法がないかということで、1つは、ペナントを作つたりしました。

ペナントは、コーディネーターの皆様にご説明する暇がなく予算執行してしまい申し訳ありませんでした。何か押しつけてしまひましたが、見守りサポーターがそもそも来ているということが認知されたり、伝わつたりというチャンスがあまりにも少ないという気がしたので、そういうことを伝えるような、一種

ののれんです、そのようなものを取りあえずは作ってみて、何か使っていけないかということをお願いしております。これは年度末ぐらいに「いや、これではだめです」というようなことを含めて感想をコーディネーターの皆さんから伺いたいと思っています。

もう1つは、DVDです。見守りサポーターがどんな活動しているかというのを、やっている様子やインタビューを撮らせていただいて、地域のシルバー人材の方たちとご相談しながら動画にまとめております。再生時間を2、3分と短くして、もし何か興味があったらそれを見れば概要が分かるというようなものにして、できたらその動画を、例えば、放課後の皆様のところにお渡ししておいて、見たい方はそこに行き借りてみる、もしかしたら、どこかにアップすることなどができないかと思っています。

今の話が広報ですが、2番目は活動です。活動は、やはり見守りサポーターの人って何をしたらいいのかということで迷われることも多いので、カブラの話も出ましたが、地域の方も来て一緒に楽しめるような、しかも、今学校で問題になっている学習の問題がクリアできるような、でも、宿題を見守るのではなく、何か自立的な学習につながるものはないかと思ひまして、今その予算で大人の脳トレ系のドリルを幾つか買って、幾つかの小学校に置かせていただいて、その協力のサポーターの方がお子さんと試してみるということをやっております。

これは、ペナント・DVDは何かどうなるかなという感じですが、比較的好評なようで、子どもにとってはゲームに近いですから、「こんなのをやってみるか」と言っていて、一緒に楽しくやっています。カブラもいいけれど、そういう一緒に学んでいくような身近なものもあっていいのではないかと今思っているところです。

最後に、交流です。これまでも学校は地域に、地域交流室があって、そこで、地域の方たちが活動していらっしやいます。ただ、例えば、一小もすぐ隣ですが、歴史的には確か地域交流室のほうが先にあったので、あびっ子クラブとのご縁がほとんどない状態なのです。だから、もったいないという感じがあるのですが、あまり強制的なこともできませんし、一小の場合は体験祭りというのがあって、いくつものチャレンジを体験できる遊びの一日がありますから、せめてその一日ぐらい地域交流室の廊下側に掲示板があるので、その掲示板などに、活動していらっしやる手芸、お習字などを、よかったら一日飾ってお子さんに見ていただきませんかというチラシを配っていいか、ご相談を教育委員会にしているところです。どうなるか分からないですが、少しずつでも交流や、ネットワークが広がっていけばいいなと思っています。

以上のようなことをやっております、年度末にもし動画など美しくできましたら、皆様にご披露できればと思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。非常に興味深い取り組みされているなと感じました。動画も楽しみにしたいと思います。

今のことについて何かご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは、最後、その他ということで、次回以降の運営委員会開催の日程についてです。第3回の運営委員会になりますが、一応、2月の中旬を予定しております。また場所の確保ができ次第、皆様に通知を差し上げたいと思いますので、そのときにはまたご出席のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、これもちまして第2回放課後対策事業運営委員会を終了したいと思ひます。どうもありがとうございました。